

第37回 熊本の消費予報調査(2017年5月調査)

女性の消費マインド、改善するも支出は控えめ

当研究所では、熊本県在住の女性を対象として、1999年5月より「熊本の消費予報調査」を実施している。本調査では、消費マインドに影響する「景気」、「暮らし向き」、「支出意欲（支出の引き締め）」に対する意識と、実際の消費に関わる「収入」の増減について今後半年の見通しを尋ねている。その上で、以上4つの項目並びに日常的、非日常的な支出の状況から総合的に判断し、これから半年間の熊本の消費を予報している。

【調査結果のポイント】

1. 今後半年間の見通しDI

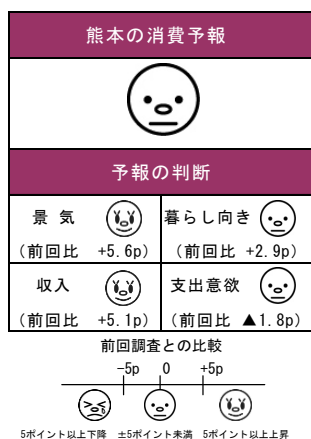
- ・景気の見通しDIは▲24.7、前回調査比で5.6ポイント（以下、p）改善した。
- ・収入の見通しDIは▲6.0、同5.1p改善した。
- ・暮らし向きの見通しDIは▲19.8、同2.9p改善した。
- ・支出意欲の見通しDIは▲50.9、同1.8p悪化した。

2. 熊本地震前と比較した現在の生活環境

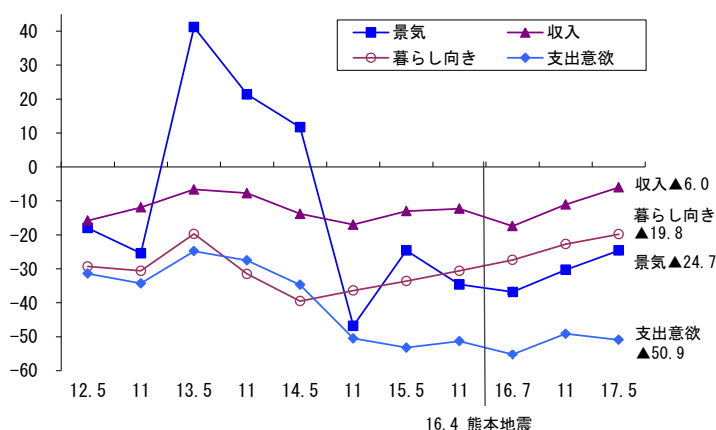
生活環境が改善した生活者では、「今を楽しもうという気持ちが強くなった」という意見もみられ、生活環境が改善することで、行楽などを楽しむ余裕が生まれると推察される。

3. 熊本地震後の消費行動の変化

消費行動が元に戻った生活者は、購入量や支出が地震前に戻りつつあるが、元に戻っていない生活者は、買い控えをするなど支出を抑える傾向が続いているようである。



【今後の見通しDIの推移】



【調査の概要】

1. 調査対象：熊本県在住の20歳以上の女性
  2. 調査期間：2017年5月18日～21日
  3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査  
(調査会社：(株)マクロミル)
  4. 有効回答：515人
- ※2015年5月調査より郵送法からインターネット調査へ調査方法を変更している

【回答者の属性】

年代	実数(人)	構成比(%)
20代	103	20.0
30代	103	20.0
40代	103	20.0
50代	103	20.0
60代以上	103	20.0
合計	515	100.0

## 1. 今後半年間の見通し

## (1) 景気の見通し

- ・景気の見通しDIは、前回調査を5.6p上回る▲24.7となった（図表1）。
- ・年代別にみると、すべての年代で前回は上回っており、景気の見通しが改善している。

(自由回答)

- ・東京オリンピック関係で事業が増えると思う（40代会社員）
- ・復興が徐々に進んでいる（40代パート）
- ・企業収益が改善してきている（60代専業主婦）
- ・雇用が増えている（60代専業主婦）

図表1 景気の見通しDI

DI=(「良くなる」+「やや良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

	今回 (2017.5)		前回 (2016.11)	前々回 (2016.7)
		前回比		
全体	▲ 24.7	5.6	▲ 30.3	▲ 36.8
20代	▲ 19.4	6.8	▲ 26.2	▲ 24.0
30代	▲ 21.4	1.9	▲ 23.3	▲ 28.0
40代	▲ 21.4	8.7	▲ 30.1	▲ 37.0
50代	▲ 28.2	4.8	▲ 33.0	▲ 51.0
60代以上	▲ 33.0	5.8	▲ 38.8	▲ 44.9

## (2) 収入の見通し

- ・収入の見通しDIは、前回は5.1p上回る▲6.0となった（図表2）。
- ・年代別にみると、30代を除くすべての年代で前回は上回っており、収入の見通しが改善している。
- ・なかでも20代は前回は13.6p上回る+17.5となり、最も明るい見通しとなった。

(自由回答)

- ・パートの時間数が増えた（50代パート）
- ・仕事の依頼が増えてきている（60代自営業）
- ・再就職した（50代会社員）
- ・パートからフルタイムの仕事に転職した（20代会社員）

図表2 収入の見通しDI

DI = 「増えそう」 - 「減りそう」

	今 回		前 回 (2016.11)	前々回 (2016.7)
	(2017.5)	前回比		
全 体	▲ 6.0	5.1	▲ 11.1	▲ 17.4
20 代	17.5	13.6	3.9	▲ 1.0
30 代	2.9	-3.9	6.8	▲ 8.0
40 代	▲ 3.9	2.9	▲ 6.8	▲ 22.0
50 代	▲ 19.4	9.7	▲ 29.1	▲ 28.0
60代以上	▲ 27.2	2.9	▲ 30.1	▲ 29.2

## (3) 暮らし向きの見通し

- ・暮らし向きの見通しDIは、前回は2.9p上回る▲19.8となった(図表3)。
- ・年代別にみると、20代、40代、50代で前回は上回り、暮らし向きの見通しが改善している。
- ・なかでも20代は19.5p上回る+11.7となり、プラス水準を回復した。

(自由回答)

- ・安定した仕事に就けた(50代会社員)
- ・収入が増えた(40代専業主婦)
- ・収入が安定してきた(30代会社員)

図表3 暮らし向きの見通しDI

DI = 「良くなる」+「やや良くなる」-「悪くなる」+「やや悪くなる」

	今 回		前 回 (2016.11)	前々回 (2016.7)
	(2017.5)	前回比		
全 体	▲ 19.8	2.9	▲ 22.7	▲ 27.4
20 代	11.7	19.5	▲ 7.8	▲ 3.0
30 代	▲ 14.6	-2.9	▲ 11.7	▲ 25.0
40 代	▲ 27.2	4.8	▲ 32.0	▲ 32.0
50 代	▲ 33.0	1.0	▲ 34.0	▲ 42.0
60代以上	▲ 35.9	-7.7	▲ 28.2	▲ 36.0

## (4) 支出意欲の見通し

- ・支出意欲DIは、前回は1.8p下回る▲50.9となった(図表4)。
- ・年代別にみると、20代、50代、60代以上は前回は下回り、支出の引き締め傾向が見受けられた。
- ・なかでも20代は前回は12.6p下回り、将来への備えとして、支出を引き締め、貯蓄することを検討している生活者も多いようである。

(自由回答)

- ・ 将来のために貯金をしたい (20代会社員)
- ・ 貯蓄を増やし老後に備える (50代会社員)
- ・ 将来に不安がある (60代パート)

図表4 支出意欲DI

DI=(「緩める」+「少し緩める」)-(「引き締める」+「少し引き締める」)

	今 回 (2017.5)		前 回 (2016.11)	前々回 (2016.7)
		前回比		
全 体	▲ 50.9	-1.8	▲ 49.1	▲ 55.2
20 代	▲ 56.3	-12.6	▲ 43.7	▲ 66.0
30 代	▲ 55.3	4.9	▲ 60.2	▲ 57.0
40 代	▲ 52.4	6.8	▲ 59.2	▲ 54.0
50 代	▲ 45.6	-3.9	▲ 41.7	▲ 54.0
60代以上	▲ 44.7	-3.9	▲ 40.8	▲ 43.8

## 2. 日常的な支出の見通し

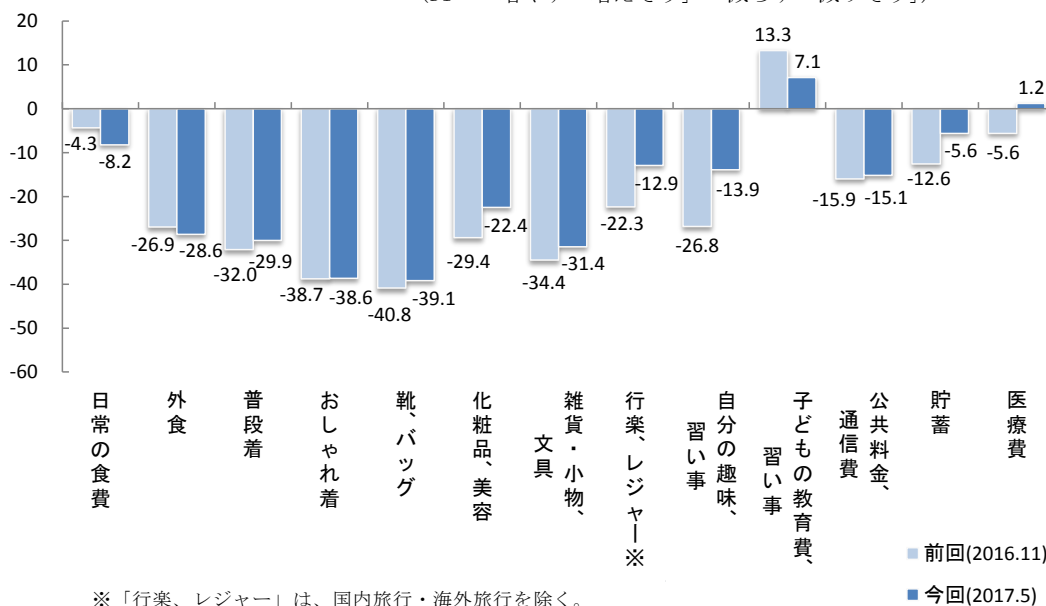
日常的な支出の見通しDIをみると、13項目中10項目で前回は上回った。

項目別にみると、「自分の趣味、習い事」で前回は12.9p上回る▲13.9、「化粧品、美容」で7.0p上回るなど、自分のための支出項目が改善している。また、「貯蓄」が前回は7.0p上回る▲5.6になり、貯蓄を増やす傾向がみられた。さらに、「行楽、レジャー」は▲12.9となり、前回は9.4p上回ったことが目を引いた(図表5)。

このように日常的な支出の見通しには改善がみられるものの、依然としてマイナス水準の項目が多く、支出を抑える傾向は続いていると思われる。

図表5 日常的な支出の今後の見通しDI

(DI=「増やす・増えそう」-「減らす・減りそう」)



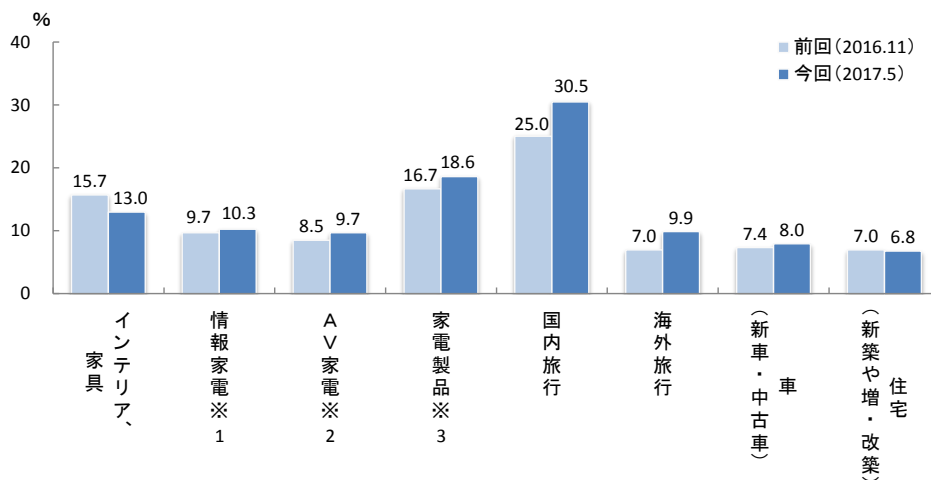
### 3. 非日常的な支出の見通し

次に非日常的な支出の見通しをみると、8項目中6項目で前回を上回っている。

項目別にみると、「インテリア、家具」は13.0%で前回を2.7p下回り、「情報家電」「AV家電」「家電製品」は微増にとどまるなど、熊本地震による買い替えは一段落したと思われる。

また、「国内旅行」は前回を5.5p上回る30.5%、「海外旅行」は2.9p上回る9.9%となり、旅行への支出を増やす生活者もいるようである（図表6）

図表6 非日常的な支出品目の今後半年間の支出見通し  
（支出見通し＝今後半年間で購入計画ありの割合）



※1 情報家電とは、パソコン、パソコン関連機器、携帯電話、ファクシミリなど。

※2 AV家電とは、テレビ、DVDレコーダー、デジタルカメラ、ビデオカメラなど。

※3 家電製品とは、冷蔵庫、洗濯機、食洗機、エアコンなど、情報家電とAV家電以外の電気製品。

### 4. 熊本地震の影響

#### (1) 熊本地震前と比較した現在の生活環境

熊本地震前と比較して生活環境が変化したと回答した生活者に対して、地震前と比較した現在の生活環境をたずねた。「ほぼ元の生活に戻った」は前回を9.4p上回る64.8%だった。また、「元の生活に戻りつつある」(21.4%)、「元の生活に戻るにはまだ時間がかかる」(11.5%)、「元の生活に戻る目処が立たない」(2.3%)はそれぞれ前回を下回っている（図表7）。

生活環境が元の生活に戻った生活者は、日常的な支出項目の「行楽・レジャー」において、元に戻っていない生活者に比べて大幅に支出の見通しが改善していた。さらに、「今を楽しもうという気持ちが強くなった」という意見もみられ、生活環境が改善することで、行楽などを楽しむ余裕が生まれると推察される。

(自由回答)

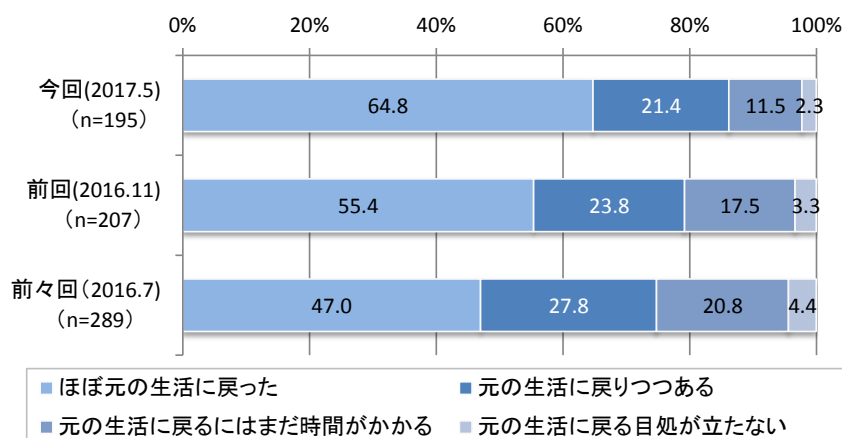
<ほぼ元の生活に戻った生活者>

- ・住宅の補修が終わった (60代専業主婦)
- ・周りの商店が再開した (40代パート)
- ・道路などの復旧が進んだ (20代専業主婦)

<元の生活に戻るにはまだ時間がかかる生活者>

- ・新築工事の目処が立たない (40代パート)
- ・住宅修理の順番が回ってこない (60代専業主婦)
- ・収入が少なく家の補修ができない (70代専業主婦)

図表7 熊本地震前と比較した現在の生活環境



## (2) 熊本地震後の消費行動の変化

熊本地震後の消費行動(買い物の場所や頻度)の変化をたずねた。「変化があり、今も元に戻っていない」は8.2%、「変化があったが、元に戻りつつある」(10.3%)、「変化があったが、元に戻った」(7.4%)、「変化はなかった」(54.6%)となった。

次に、地域別に消費行動の変化をみると、「変化があり、今も戻っていない」は県央地域で9.1%と最も多く、県北地域(7.8%)、県南地域(5.5%)、天草地域(0.0%)となった。さらに、「変化はなかった」をみると、天草地域は87.5%、県南地域(80.0%)となり、県央地域(45.7%)、県北地域(65.0%)を大きく上回っている(図表8)。熊本地震の被害が大きい地域ほど、消費行動に変化があり、元に戻っていない生活者が多いことがうかがえた。

消費行動が元に戻った生活者は、購入量や支出が地震前に戻りつつあるが、元に戻っていない生活者は、買い控えをするなど支出を抑える傾向が続いているようである。

(自由回答)

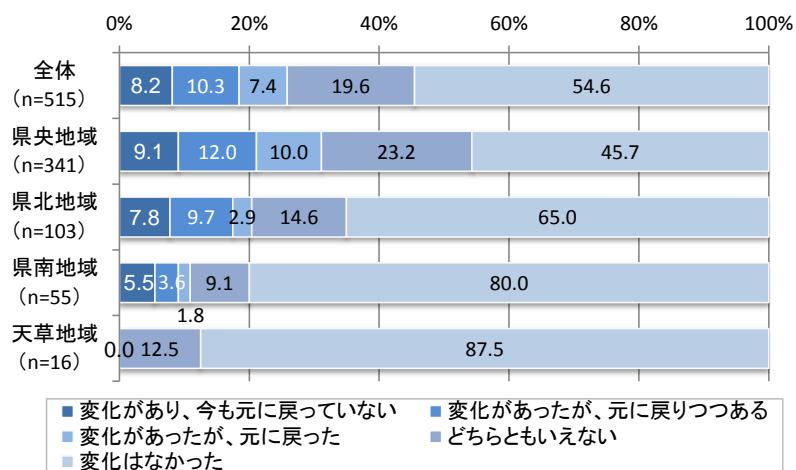
<元の消費行動に戻った生活者>

- ・ 買いだめしていたが、いつもの量になってきた (30 代会社員)
- ・ しばらくは支出が控えめになったが元に戻った (30 代パート)

<元の消費行動に戻っていない生活者>

- ・ 不必要なものを買わなくなった (40 代会社員)
- ・ 買い物を控えるようになった (50 代専業主婦)

図表8 熊本地震後の消費行動の変化



県央地域・・・熊本市、宇土市、宇城市、下益城郡、上益城郡  
 県北地域・・・荒尾市、玉名市、山鹿市、菊池市、阿蘇市、合志市、玉名郡、菊池郡、阿蘇郡  
 県南地域・・・八代市、人吉市、水俣市、八代郡、葦北郡、球磨郡  
 天草地域・・・天草市、上天草市、天草郡

以上